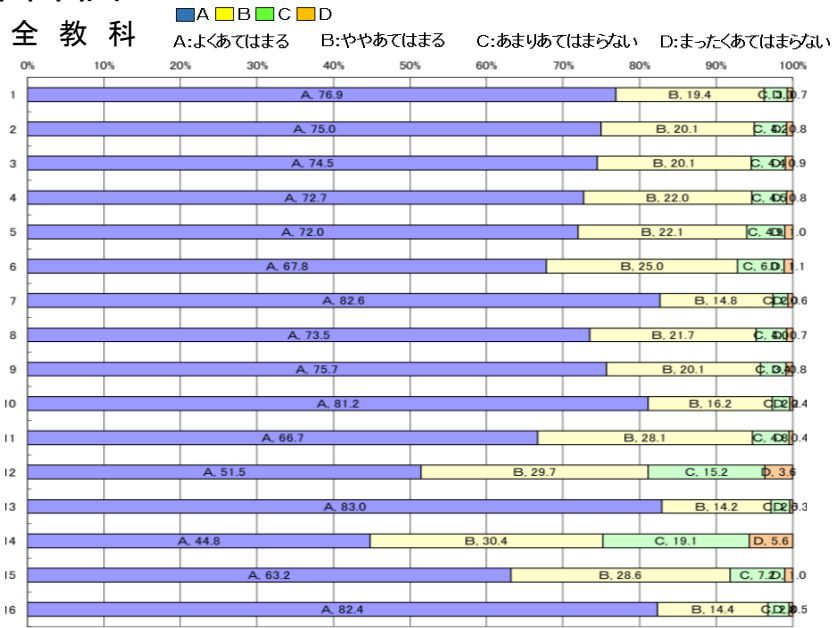


令和元年度 授業評価の結果について



項目	内容
1	授業の進捗はちょうどよい。
2	先生の話し方は、明確で聞き取りやすい。
3	黒板の文字は見やすく、要点が分かりやすい。
4	授業中（実験・実習・実技中を含む）に必要なに応じて適切なアドバイスをしている。
5	生徒によく質問している。
6	授業内容に興味・関心が持てるような工夫をしている。
7	授業の始まりと終わりの時間を守っている。
8	復ている生徒や私語をしている生徒を注意している。
9	授業内容や試験問題の難易度、成績の評価は納得できる。
10	教材（体操服・実習服を含む）の準備をして授業の始まりをまっている。
11	居眠り・私語などをせず、先生の説明をよく聞いている。
12	授業中のわからないところは質問している。
13	授業中ノートを取っている。
14	予習・復習をしている。
15	自ら進んで授業（実験・実習・実技）に取り組んでいる。
16	課題を期限までに提出している。

	評価できる、達成できているところ	不十分な点とその具体的な改善の方法
国語	特進コースや進学コース、衛生看護科では、各項目とも高評価を得ることができている。全学科、コースにおいては、しっかりノートをとっていたり、課題を期限までに提出したりすることができている。	1・2年生の体育コース、教養コースにおいて「授業内容に興味・関心が持てるような工夫をしている」「生徒によく質問する」という項目が低評価であった。生徒の興味関心を高め、魅力的な授業にしていくことが課題である。魅力ある授業づくりの研修会などに参加し研鑽を重ねるとともに、ICT機器の活用を図っていく。
地歴公民	学年ごとのばらつきはあるが、各項目ともAで70%、A・B合計で90%以上の高評価を得ていることから、生徒は概ね満足していると考えられる。特に「授業の始まりと終わりの時間を守っている」点が高く評価されている。	昨年と比べ評価が上がったが、「授業内容に興味・関心が持てるような工夫をしている」という項目が比較的低いことが反省点である。昨年より導入された電子黒板を活用する教員が増えたため、さらに活用力を上げていく。今後は生徒が自ら問いを見つけ出し、主体的に考える授業展開を目指す。
数学	「授業時間の始まりと終わりの時間」については、ほとんどの教員が達成できている。電子黒板や他のICT機器の使用により、「授業の工夫」の項目の評価が昨年より高くなったと思う。	教師からの一方通行の授業にならないように、教員と生徒、生徒と生徒等の対話的授業を行うように授業改善を行っていく。そのためのスキル向上を研修などを通じて図る。ICT機器が整い図を投影できるようになったことで利便性が増した。一方で教員や生徒の作図能力が落ちないように気を付ける。
理科	全体に渡って高い評価を得ている。中でも、ICT環境が整備されたことでそれを活用した授業を行った結果、「興味関心が持てるような工夫をしている」という項目が特に向上している。	No.10～No.16の項目に課題が多く残されている。特に14「予習・復習をしている。」の項目が生徒の自己評価が低い点を重点改善目標とする。予習・復習の習慣は学習内容の定着による基礎学力の向上に必要な不可欠であるため、次年度は予習・復習を前提とした授業の実施をおこなう。
外国語・英語	おおむね全ての項目において満足度の高い授業ができている。以前からの課題であった、「興味・関心が持てる工夫」についても、ICT機器の活用が授業改善に役立っており評価が向上した。	生徒の自己評価の部分の「予習・復習をしている。」の項目がすべてのクラスにおいて低い。予習・復習は学力の定着に欠かせないため、予習・復習を前提とした、対話的な授業を展開していける授業構成の開発に努める。
保健体育	体育では、各項目において高い評価を受けることができた。生徒の自己評価に関しても積極的に授業に取り組むことができていたことが伺える。各科、コースの特性に応じた実技の授業を心掛けた結果であると思う。	複数クラスの授業が重なった際に、実技の実施場所の確保が難しくなるため、時間割担当と連絡を密にとりて不都合の出ないようにする。また、保健等座学の時の、生徒の授業関与度が低い傾向があるため、ICT機器を活用し生徒が興味、関心を持てるように授業の工夫を行う。
芸術	各項目で高評価を得ている。実技教科であり、全てのクラスで生徒が主体的に取り組んでいる。また、対話的な活動を生徒が行い目標を達成しているクラスもある。生徒が楽しむことができるように、内容を工夫して授業を行っている。	実技教科は「楽しい」と感じる生徒が多いようだ。ただ、そこに満足しては授業内容の充実や指導力の向上につながらない。生徒の感じること、周りとの違いに気がつく授業を心がける。特に、協働学習として一つの作品に対する多くの考え方を言語活動を中心に共有する時間を取り入れていく。
家庭	家庭科は授業内容の種類が多く授業展開の速度が速すぎることを懸念していたが、評価結果から「生徒が授業の進捗はちょうどよい。」と考えている生徒が多きことがわかり、問題なく進行できていたという点に安堵している。	生徒へのアドバイスや質問の項目が不十分であったことが分かった。改めて振り返ると、これまでの授業では生徒の理解度よりも進度を優先していたことが多々あったように思える。今後は生徒の理解度の向上につながる様に、授業内容の精査と指導力の向上に努める。
情報	全項目A評価の平均が77.0%であった。状況に応じてパソコン画面とホワイトボードを使い分けた結果、No.3の項目で、A評価87.0%を達成している。また、ポイントを絞った指導によりNo.1の項目は、85.1%を達成している。	No.5の項目が、72.7%で他の項目と比べると低くなっているのは、意識して生徒に質問をするようにすれば改善できると考えられる。生徒の自己評価の項目で一番低かったのが、No.14で、評価Aが47.2%であった。予習復習を行い辛い教科ではあるが、次回の授業に向け自宅で考えることができる課題を設定する。
商業	商業科教員全員で授業改善目標達成に向け取り組んだ結果、「授業の進捗は、ちょうどよい。」「授業の始まりと終わりの時間をまもっている。」「授業中に必要に応じて適切なアドバイスをしている。」の項目で高評価を得ている。	「生徒によく質問をしている。」の項目の評価が低い。教師中心の授業になっているため、生徒が積極的に参加するような授業に改善する必要があると考える。生徒が積極的に授業に積極的に参加することのできる雰囲気作りを心がけ、適切な質問を行い授業に積極的に参加する生徒を増やすようにする。
福祉	「要点がわかりやすい」という評価が、A・B合わせて90割以上ある。板書については、テスト前に見返した際に分かり易いように工夫したノートになるように心がけている結果であると思う。	生徒の自己評価の「わからないところは質問している」という項目について、評価が低い生徒が多いところから、生徒が十分に理解してないまま授業を進めているのではないかと懸念される。授業内に質問の時間をとったり、机間巡視の際に積極的に声を掛けることで、生徒の理解度を測る。
看護	看護は科目数が多く学習範囲が広いため授業進度を上げざるを得ない状況であるが、ICT機器を活用し授業の振り返りを行った結果、授業の進捗の評価が高い。項目No.7やNo.13の評価が高いことは、授業規律が確保できている表れである。	看護教科に対し質問が少ないことや予習復習を行っている割合が低いのは、主体的に考える場面が少なく一方的に授業展開をしている結果だと考える。また評価のばらつきもあることから授業内容の情報交換や看護科内での授業評価を行い授業改善と授業力向上に努める。

生徒のみなさんご協力ありがとうございました。先生方、集計・結果の分析ご苦労様でした。

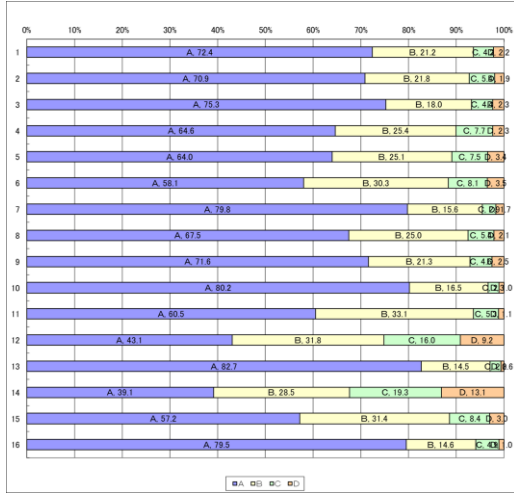
この調査を今後の授業の改善に繋げていきます。

尽誠学園高等学校教務部

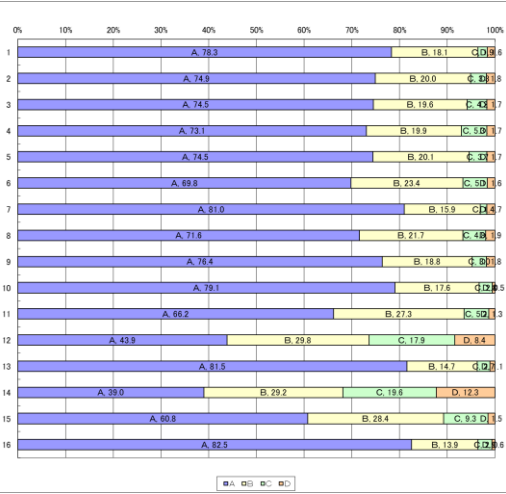
各教科の評価結果

R元. 6・9月実施

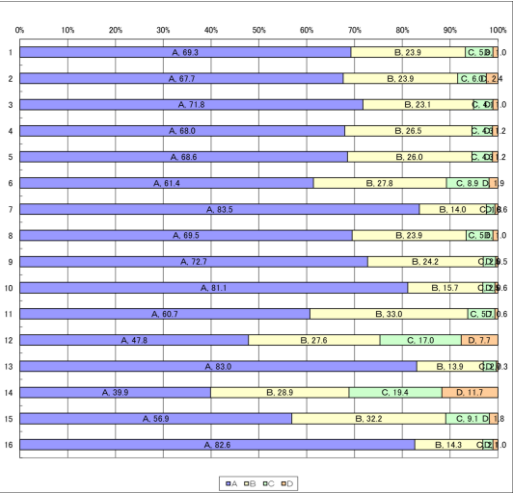
国語



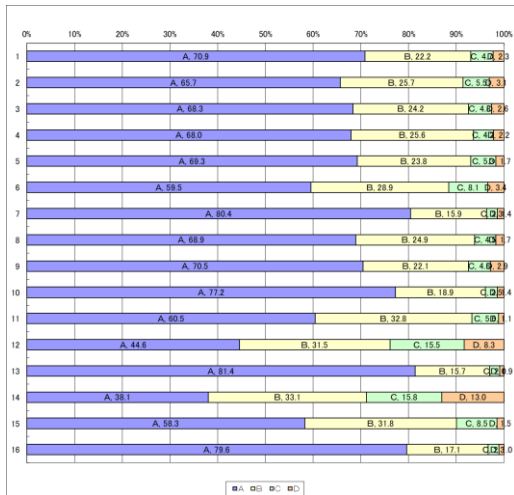
地歴公民



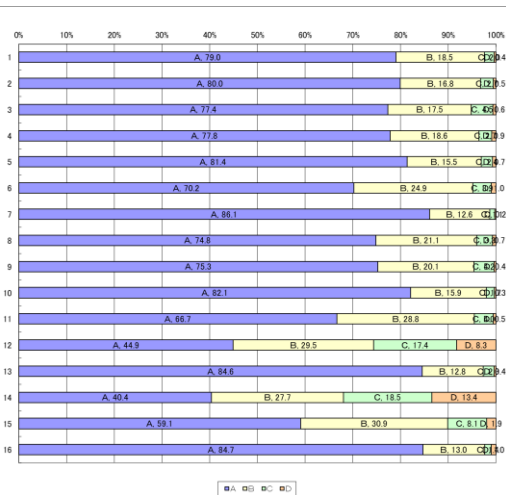
数学



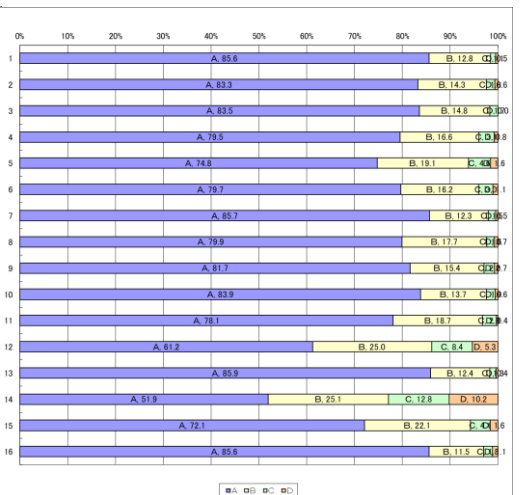
理科



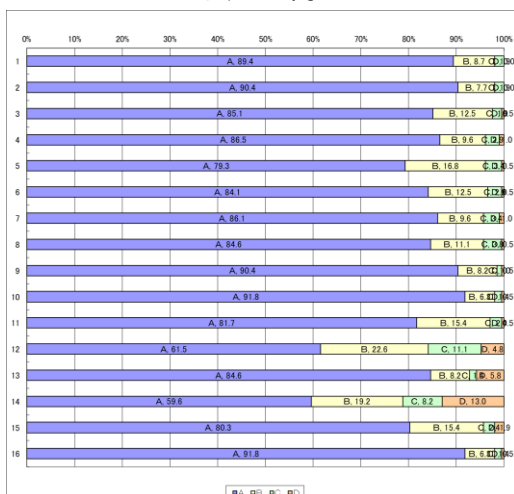
外国語 (英語)



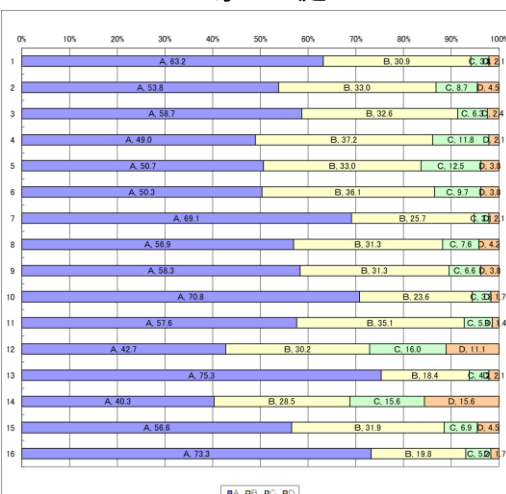
保健体育



芸術



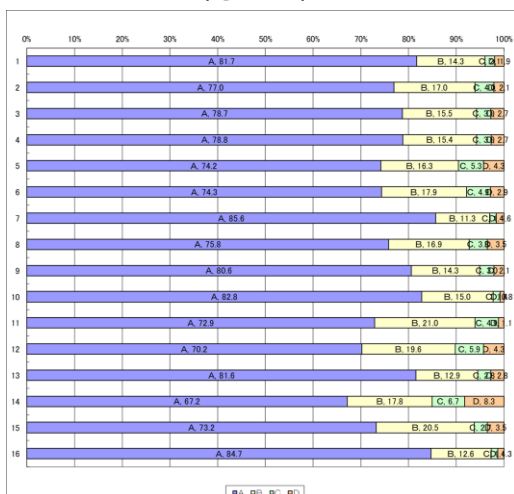
家庭



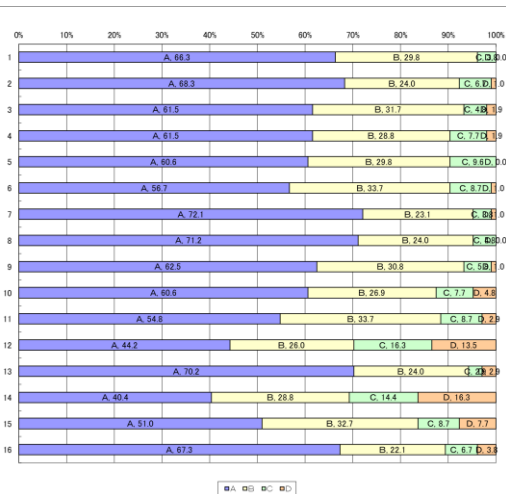
情報



商業



福祉



衛生看護

